小学校の事例 手稲区 手稲北小学校

地域の特産物「スイカ」を栽培。「作物を育てるマイスター」が指導協力。

地域の農家より提供された土地でスイカを栽培。
作物づくりを通じて天候や地質の関わりや、
地域と協力した環境の取組を体験。
地域色を生かした学習へと発展。

内容 収穫は300個以上 みんなで甘いスイカを食べる

本校では、地元のスイカ農家からテニスコート約15面分の農地を借り、全児童で野菜栽培に取組んでいる。きっかけは昭和52年頃、農家から「子供たちにも作らせてみませんか」との申し出があったことである。農家の方には「作物を育てるマイスター」として、栽培活動にも様々な形で協力いただいている。

上記のような経緯から、栽培活動の中心となっているのは6年生が栽培する「スイカ」となっており、長さ80メートルほどの畝3本で栽培している。畑は地質がよく、農家のアドバイスもあり、とても甘いスイカを収穫することができている。今年は300個以上の収穫があり、保護者や他の学年の児童も一緒に食べることができた。

児童はこの栽培活動を通して「人間と自然との関わり方」を学んでいる。

また、地域で生産されたものを、その地域で消費するという「地産地消」を通じて、環境意識も高まってきている。栽培は天候に左右されるものなので、ゲームと違ってリセットすることはできない。環境について学び、実践することで「作物と天候」、「作物と地質」、「作物と地域協力」を実践的に学んでいる。

この栽培活動は、平成21年には「広報さっぽろ」11月号に記事として掲載され、そしてNHK「おはよう日本」で6分ほど放送されている。

スイカ収穫祭のようすを掲示

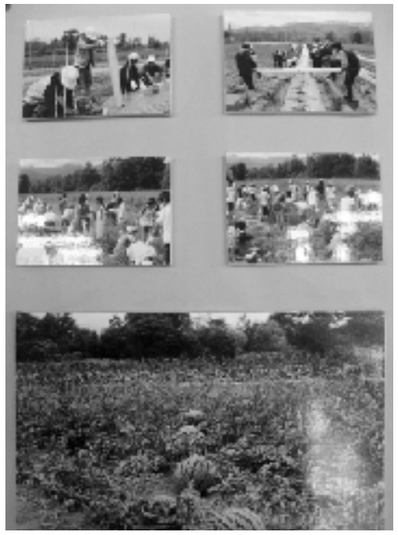
広報さっぽろ

今後 地域色のある取組をさらに発展

農地は砂地で海が近く、昼夜の温度差でより甘いスイカができる。反面、砂地は水はけがよすぎるため、その他の作物の栽培はなかなか難しい。学校における栽培活動においては、その土地にあった作物を手がけることがよいと考えている。

人との交流も、環境に取組む際の重要なポイントだと思う。町内会の行事や集まりに積極的に参加し、地域について情報を集めることを心がけている。幸い、本校の同窓会の会長が地域におり、街の中の「達人」を探しやすい状況である。今後は地域色を生かした栽培活動を通して「環境」について考え、そして自分たちが住む街での取組について考えていけるよう、学習を発展させていきたい。

スイカ収穫祭をパネルで展示


スイカ栽培のようすを掲示

収穫祭の写真パネル

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

平成22年12月に子供たちが近くにある山口運河沿いに、ごみのポイ捨てや落書きの禁止を呼びかける手作りの看板2枚を設置しました。これは環境委員会の活動の一環で、住民に親しまれている運河の環境美化を目的として5、6年生の委員が、学年ごとに1枚ずつ製作したもの。児童8人と同地区を担当するスクールガード1人が参加して、設置も子供たちが行いました。参加した子どもは「この看板を見て、運河をきれいにしたいと思ってくれる人が増えてくれるとうれしい」と話していました。